

# 新足摺海洋館 基本設計概要版

平成 29 年 2 月 高知県



## 基本方針

### ■竜串地域で整備する大きな2つの強み

- ①「黒潮」の本流が直接陸地にぶつかる地域
  - ・多種多様な魚類等が生息できる自然環境（サンゴ、ウミウシ、ゴマサバ、深海生物）
  - ・歴史的な海との関わり [ジョン万次郎・漁師文化・魚食文化]（漁法、清水サバ、宗田節）
  - ・「海の恵み」と「山（原生林 [アコウ、ヤブツバキなど]）の恵み」が重なる地域
  - ・海洋研究のメッカ（海遊館以布利センター、黒潮生物研究所、黒潮実感センター）
- ②目の前が竜串湾
  - ・日本初の海中公園（現：海域公園）地区に指定された貴重な自然資源が残る国立公園
  - ・自然・景観を活かした観光施設やアクティビティの宝庫（足摺海底館、ダイビング、グラスボートなど）
  - ・国立公園ビジターセンターの整備や日本ジオパークネットワークへの加盟に向けた取組が進捗

### ■強みを最大限に活かす整備の考え方

- ①の強みを活かす  
足摺・竜串に生息する生物や自然、歴史的な海との関わりを展示
  - ・山・川・海に生息する生物と原生林や特徴ある奇岩・巨石などの周辺環境を館内で再現
  - ・海と海で暮らす（生きる）人々の歴史と文化を紹介
  - ・国内有数のサンゴ・ウミウシ・深海生物の生息地ならではの展示と調査・研究成果を情報発信
- ②の強みを活かす  
水族館から目の前の竜串湾に行きたくなる演出
  - ・目の前の海を借景とした大水槽や竜串湾を見渡せる屋外展望デッキ、カフェ等を整備
  - ・水族館から地域（海、人、文化[食]）へ繋ぐ「コンシェルジュデスク」を設置
  - ・地域への周遊性を高める遊歩道等を再整備

## 竜串地域全体が大きな自然の水族館

### 地域から世界に誇れるオンリーワンの水族館へ

#### ■実現するための3つの柱

#### 立地

目の前に広がる竜串湾（桜浜）との親和性が高い立地

#### 展示

目の前の海や山に生息する生物と奇岩や海の景色を組み込んだ展示

#### 周遊

水族館を核として、目の前の自然や地域の食・歴史に誘い、周遊させる仕組み

## 水族館の展示と目の前の自然環境やアクティビティが連動している日本初といえるような特徴ある水族館



## 配置計画

### 目の前の海との一体感

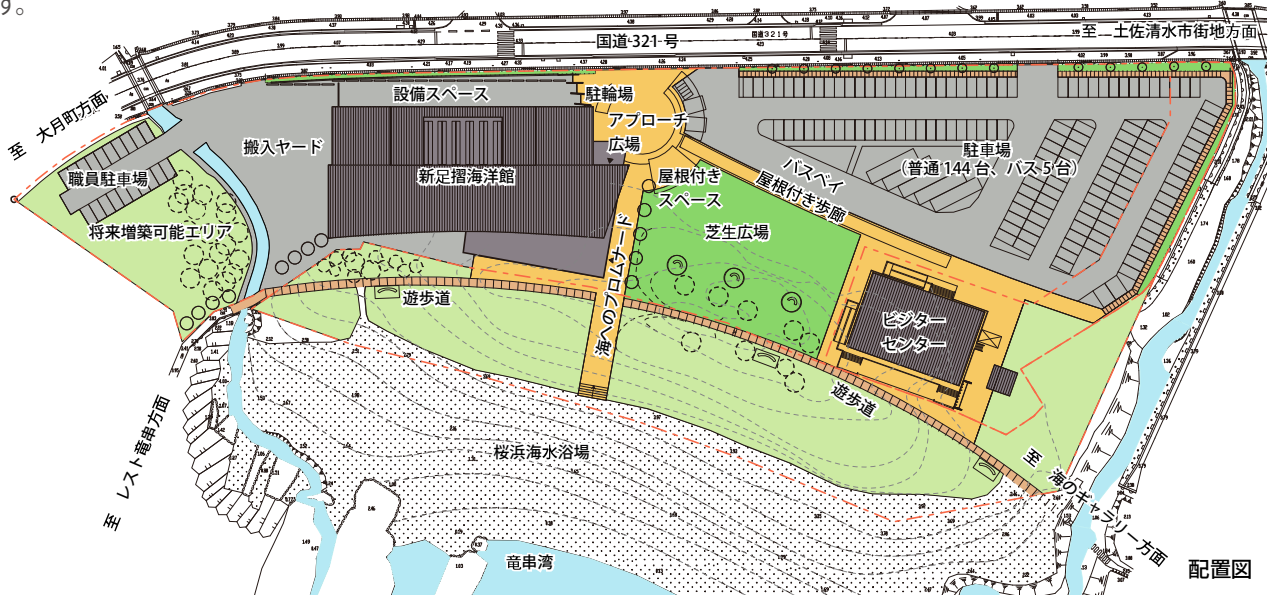
- ・ 竜串湾（桜浜海水浴場）へつながる海へのプロムナード（散策路）を整備し、海への眺望と繋がりを創出します。
- ・ 遊歩道を再整備し、水族館をエントランスとして地域へ誘引します。
- ・ 生態系の保全に配慮し、既存の樹木を一部活用する計画とします。

### 明快な施設配置

- ・ 建物北側に設備スペースを設け、塩害リスクに配慮した計画とします。
- ・ 敷地西側に将来増築等に対応可能なスペースを確保します。

### にぎわいを生み出す

- ・ 新足摺海洋館とビジターセンター間には屋根付き歩廊を設け、一体感や利便性を向上させます。
- ・ イベント等の開催が可能な芝生広場を整備し、雨天時にも配慮した屋根付きスペースを隣接させます。
- ・ 現館を大幅に上回る駐車台数を確保し、バスベイの設置により団体ツアーにも柔軟に対応が可能です。



## 外観計画

### 竜串の美しい景観と呼応

- ・ 波や風の侵食によって生み出された奇岩の造形美を水平ラインや開口部で表現します。
- ・ 屋根の軒先を緩やかにカーブさせ、桜浜の渚や遊歩道に寄り添う建物形状とします。
- ・ 足摺宇和海国立公園管理計画書に定める公園事業取扱方針に順守した計画とします。



## 平面計画

### 展示面積等を最大限確保

- ・ 設備機器を一部外置きとしてキーパーヤードの面積を縮減し、同規模水族館平均の1.1倍の展示面積を確保します。
- ・ レクチャールームは仕切りによって様々な活用ができ、最大で学校1クラス(40人)が収容できる面積を確保します。

### アメニティの充実

- ・ トイレや授乳室は有料・無料ゾーンに分散配置し、来館者の利便性を高めます。
- ・ カフェは屋根付きの屋外席を設けられる計画とし、夏場は水着姿での利用も可能です。



## 防災計画

### 南海トラフ地震に備える

- ・ 重要度係数は1.25を採用し、大地震後に構造体の大きな補修をすることなく建物を使用できることを目標とし、人命の安全確保・機能確保を図ります。
- ・ 津波の発生時には、地区の避難場所(徒歩約6分)への移動を基本とします。
- ・ 屋外へ脱出する避難口を3箇所確保し、緊急時にも安全に避難が行える計画とします。

### 風水害リスクの軽減

- ・ キュービクルや自家発電機などの最重要設備は2階や屋上に設置し、浸水のリスクを最小限とします。
- ・ 屋根は耐塩害性に優れたステンレス製、雨樋は全て外樋とし、漏水のリスクを最小限とします。
- ・ 高水密サッシ(水密性1000pa、JIS最高等級W-5の2倍の性能)を採用し、屋内への雨水侵入を防ぎます。

## 建築概要

- ・ 建築面積：約2,120㎡
- ・ 延床面積：約3,310㎡
- ・ 規模：地上2階
- ・ 構造：鉄筋コンクリート造
- ・ 展示動線(想定)：約330m
- ・ 滞在時間(想定)：約90分

## スケジュール(想定)

- ・ 平成28年度 基本設計
- ・ 平成29年度 実施設計
- ・ 平成30・31年度 建設工事
- ・ 平成32年度夏頃 開館

## 展示計画

### 山から海に、そしてフィールドへ

- ・基本計画に基づき、山から川、浅瀬の海、そして深海へと徐々に視点の深度を下げていく順路構成とします。

#### 足摺の原生林 ～いのちを育む源流の森～

- ・来館者を迎える最初のゾーンとして、インパクトのある空間演出とします。温帯性、亜熱帯性の植物や巨石群などを館内で再現し、河川に生息する魚類やコツメカワウソを展示します。
- ・来館者は蛇行した順路を進みながら、あちこちに潜む生物を観察できます。



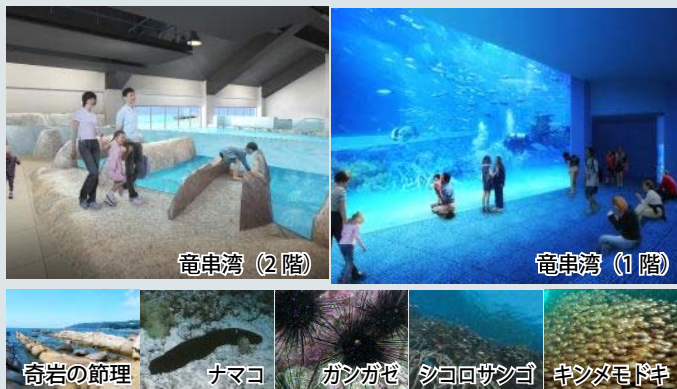
#### プロローグ ～黒潮を学ぶ～

- ・目の前に広がる桜浜へ産卵にやってくるウミガメを展示します。
- ・目の前の竜串湾を象徴する生物であるサンゴの生体を内湾や外海など、生息域別に展示を行います。



#### 竜串湾 ～サンゴが育む生物たち～

- ・2階は水槽と目の前の海が一続きに見える演出を行い、奇岩をモチーフとしたタッチングプールなどの体験型ツールを配置します。
- ・1階は館内最大の水槽をベンチに座ってゆったりと眺められる空間とします。
- ・人と海の関わりや食文化を伝える「漁師文化コーナー」を設置します。



- ・水族館を観覧した後は、コンシェルジュによって来館者を目の前の海や地域へ誘います。

#### 足摺の海 ～海がもたらす恵み～

- ・移動可能なユニット水槽を中心に、ユニークな特徴や習性をもつ魚類を展示します。

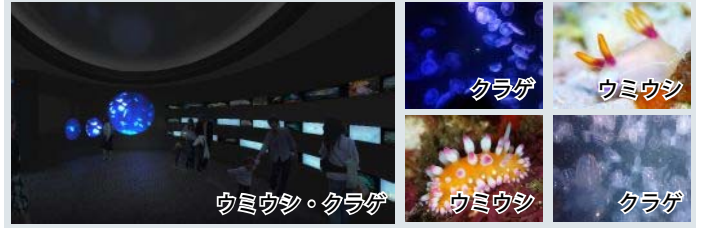
#### 外洋 ～黒潮がはこぶ、多種多様な生き物～

- ・天井部分に水槽をオーバーハングさせ、雄大な黒潮の海に包まれる演出を行います。



#### ウミウシ・クラゲ ～黒潮の宝石～

- ・竜串湾に生息する宝石のような美しさを持つウミウシやクラゲを幻想的に展示します。



#### 深海 ～神秘の世界～

- ・足摺沖の深海の世界を再現します。
- ・宝石サンゴや、深海の珍しい生物を標本を交えて展示します。



#### 企画展示

- ・定期的な展示更新により話題性を発信します。
- ・複数のゾーンからアクセスでき、様々な企画を受け入れるフレキシブルな空間とします。

#### エピローグ

- ・足摺・竜串の貴重な自然、生物多様性を地域で楽しみ、未来に残していくためのメッセージを発信します。
- ・更新が容易に行える設えとします。

#### ショップ・カフェ、コンシェルジュ

- ・ガラス越しに海が望める開放感のある空間とします。
- ・出口付近にコンシェルジュデスクを設置し、来館者を目の前の海や地域へ誘います。



#### 目の前の海・地域へ

